

令和5年度 項目別の自己評価表

学校法人木村学園 大阪電子専門学校 自己評価委員会

【日時】 2024年3月1日 14時30分～15時00分

【出席者】 木村学校長、上田良和、河村、中本、浅野、木暮

【場所】大阪電子専門学校 1階 会議室

1. 教育目標

【電子工学科】教育基本法および学校教育法にしたがい、工業専門課程を設置し、電子工学および無線工学、音響工学および特殊無線技士に係る養成をし、教養の向上と人格の陶冶を図る。また、業界関係者の助言を受け入れつつ、電子工学エンジニアとして電子回路を製作する場面で必要とされる知識を習得し、技術者として仕事に対する心構えや倫理観を養い、弊学園の校訓である「人技両立」を成し 遂げる技術者の養成を行う。

【電気設備科】教育基本法および学校教育法にしたがい、工業専門課程を設置し、電気工事士、工事担任者および特殊無線技士に係る養成をし、教養の向上と人格の陶冶を図る。また、業界関係者の助言を受け入れつつ、電気工事士として現場で必要とされる技術を習得し、技術者としての倫理観を養い、弊学園の校訓である「人技両立」を成し 遂げる技術者の養成を行う。

【情報エンジニア科】教育基本法および学校教育法にしたがい、工業専門課程を設置した。これにより情報技術者に係る養成をし、教養の向上と人格の陶冶を図る。また業界関係者の助言を受け入れつつ、情報エンジニアとして現場で必要とされる技術を習得し、技術者としての倫理観を養う。これをもって弊学園の校訓である「人技両立」を成し 遂げる技術者の養成を行う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

AI・ロボット・IT技術は、今後ますますの少子高齢化による日本の働き手不足に対する今の日本の技術面の観点からの答えの一つだと考えられる。弊学園は次世代の教育活動の高度化のため、学内教育向け情報システムの構築をもって、学生のオンライン教育をはじめとするITテクノロジーの教育の充実を図り、校内ネットワーク環境をグレードアップした次世代通信環境の構築を行うことで有能なITエンジニア輩出と活躍により省力化と自動化を推進して労働者不足に対応できる教育を展開するようしたいと考えている。

くわえて良好な通信環境によりオンライン授業のソリューション構築を推進して、いつでも勉強できる環境を提供できるように研究していく。

また、教務・事務関連作業の効率化・迅速化のために新たな業務システムの導入により、成績管理、資格取得認定条件管理などを一元化した強力な教育事務支援を実現するよう努める。

もって教員を煩雑な事務作業から開放して、実践技術指導や資格取得指導に専念できる環境を提供して技術教育の実績を向上させるように計画している。また、AI・ロボット・IT技術をすべての学科の教育に織り込んで次世代型のエンジニアを育成できるように3学科の教育の改善・再構築を行っていく。

具体的には電気設備科ではドローン技術をさらに向上させて実用技術としての利用を検討する。また、電子工学科ではロボット技術をより高度化して人間の意図した作業を適切にできるようにスキルアップを目指す。さらに情報エンジニア科では長年のAI教育、Pythonの教育の成果を生かした実用技術の公開を視野において学園のプレゼンスを示したいと考える。

くわえて、本年はChatbotやBARD、メタバースも利用した教育支援にも取り組んでいく。

教員研修については、学園内に産学共同研究室を設置を目指すとともに本年度は各学科専門技術の研鑽とAI・ロボット・IT技術の先進技術についてさらなる研修内容の充実に向けていく。

また、職業実践専門課程認可学科では各学科関係企業や学園教育顧問などの連携によりさらに実践技術のレベル向上を図っていく。

また、実践技術教育支援企業の増加をさせるように対策していきたいと考えている。

現在教員の高齢化による世代交代がピークになっており、有能な若い専門人材確保獲得に向け周到な対策をたて、必要人材確保により専門技術教育に些かも揺るぎのない教育体制の構築を図るよう努めていく。

全員資格取得は専門学校として当然のことであり、さらに難関と言われる資格取得へチャレンジさせるように学生を強力にサポートしていく。

また、学園の充実した専門教育を保護者の方のみならず広く一般に公開して公的機関として開かれた学校に一步でも近づくように努力したいと考えている。

くわえて特別支援学校をはじめとした様々な学校を対象とした出前授業の実施により、細やかですが社会貢献とともにSDGsに沿うように心掛けていきたいと考えている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|---|----|-----------------------------------|
| ・創立者の精神「人技両立」の教育理念は実行されているか？ | 全体 | 【4】 |
| ・職業教育の技術面、及び職業観について重視した教育となっているか？ | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・当校のカリキュラムが業界のニーズを満たせるようなものとなっているか？ | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか？ | 全体 | 【4】 |
| ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の要求する人材育成が行えるようなものとなっているか？ | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |

①成果と課題

創立者の精神『人技両立』のもと、業界セミナーや各学科の実習で企業の方に指導していただくことで実践的な教育を実施して学生が将来現場で必要となる技術や知識について学ぶ授業を行ったり、レクリエーションやスポーツ大会、学期末パーティーなどの行事を通して学生のコミュニケーション力、自主性、責任感を育成するなど、人格・技術ともに育成するような教育を行った。

企業の方からの要望により、さらに基礎をしっかりと固めること、現場で大切なコミュニケーション力のさらなる向上を図っていく。

②今後の改善方策

業界ニーズを今後も満たしていくため、実践的な実習のほか、職場見学や連携授業を取り入れることにより、現場の空気を感じられるような授業や現場見学、企業との連携授業を行うことが必要であると考えている。

(2). 学科運営

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|--|----|-----------------------------------|
| ・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか(教務) | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか(教務) | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか(教務) | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか(総務) | 全体 | 【4】 |
| ・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか(総務) | 全体 | 【4】 |
| ・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 全体 | 【4】 |

① 成果と課題

学科の運営は、学園事業計画及び各規則に基づき適切に行われている。また、情報公開についても法令などで規定された情報公開はできている。これらの達成により、評価として適切に運営されていると考えている。

② 今後の改善方策

法律や規定で示されている内容は実施しているが、今後学生や弊学園に興味を持った方が更に詳しい情報を知ることができるように公開する情報の範囲や、資料の公開方法などを今後も引き続き改善していく。

(3). 教育活動

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|---|----|-----------------------------------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 全体 | 【4】 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 全体 | 【4】 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 全体 | 【4】 |
| ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 全体 | 【4】 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 全体 | 【4】 |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 全体 | 【4】 |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 全体 | 【4】 |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 全体 | 【4】 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 全体 | 【4】 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 全体 | 【4】 |

①成果と課題

弊学園の校訓である「人技両立」は弊学園の教育理念を一言で表すものであり、様々な教育課程や課外活動はそれらの理念に沿って運営されている。

まず、人物面の強化として、全学生がビジネスマナーを学び一社会人として恥ずかしくない知識を満たせるように計らった。また、全学生に救命講習を行い、命の大切さや人を助けるのに必要な応急手当の知識を学んだ。

技術面の教育としては、職業実践専門課程に基づく企業連携により様々な企業様のご協力の下実践技術の習得に努め、学生の実践技術の向上を図ることができた。

教員にも年間計画に基づく研修の実施を行い、教育の質の向上に努めた。さらに、AI・ロボット分野について教員の知識の向上を図るため、電気設備科・電子工学科では教員が3D-CAD研修を受講した。

それ以外に電子工学科として、インテックス大阪で実施された展示会に参加し、ロボットの実用面での情報収集に努めた。また、情報分野でも展示会などで情報システムの実用面での情報収集を行った。

②今後の改善方策

AI・ロボット関連の教育研修については、研修の実施などが少なく、それらの研修に対してより情報収集を行い、今後の研修の質向上に努める。

(4). 学修成果

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|--|----|-----------------------------------|
| ・ 就職率の向上が図られているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 資格取得率の向上が図られているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 退学率の低減が図られているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 全体 | 【4】 |

①成果と課題

担任と連携し、就活指導を行っている。就職希望者に対しては、学校全体で現状95%が内定となっている。

全クラスは担任制を取っており、学生の就職指導および学生のサポートについて担任主体で行う体制が構築できている。就職センターでは個別対応で学生に寄り添って就活支援を実施しており、就活後半では学生に対してよりマッチした企業を斡旋している。

資格取得率についても、電子工学科、電気設備科は認定資格である第二級陸上特殊無線技士や電気設備科は第二種電気工事士の資格取得ができるため、100%となっている。情報エンジニア科は、1年生は75%の学生が何らかの資格を取得しており、2年生は全員資格を取得している。

弊学園は資格取得のメリットの説明などを学生に行った上で資格取得対策や学生の指導に当たっており、その成果が出ていると考えている。

②今後の改善方策

就職先企業を退職した卒業生の動向については、完全には把握できておらず、就職先企業からいただく情報により把握している。

独自の 방법으로卒業生の状況を把握できるような方法を模索していく必要があると考えている。

(5). 学生支援

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|--|----|-----------------------------------|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 全体 | 【4】 |
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか | 全体 | 【4】 |
| ・保護者と適切に連携しているか | 全体 | 【4】 |
| ・卒業生への支援体制はあるか | 全体 | 【4】 |
| ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 全体 | 【4】 |

①成果と課題

就職や学生の悩みの相談などについては担任によりサポートが行われており、特に就職に関しては、就職担当教員とも協力しながら学生の支援に当たっている。

また、課外活動なども年間スケジュールとして実施し、学生が学校生活を楽しめるように配慮している。

②今後の改善方策

卒業生が再就職などで相談に来たり、資格取得についての相談があった場合は適切に担当者や教員が対応しているが、そういった支援を行っていることを積極的に広報しているわけでは無いため、学校に問い合わせることができるということを知らない卒業生もいると考えられる。それらについて学校としてどう支援していくのかは今後も検討していく必要があると考える。

(6). 教育環境

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|--|----|-----------------------------------|
| ・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 電設 | 【4】 |
| | 電子 | 【4】 |
| | 情報 | 【4】 |
| ・ 防災に対する体制は整備されているか | 全体 | 【4】 |

① 成果と課題

長期休み前後や災害発生直後など、定期的に各施設設備の点検を行うなど学習環境の維持に努めている。

また、インターンシップについては積極的に学生を参加させるように努めている。

② 今後の改善方策

実習や授業で使用される施設・設備に関しては、今後も更新や改善を図っていくことを計画している。現在具体的には、入り口ロビーの改装工事や、教室のLED照明更新工事の実施などを計画している。

また、インターンシップについては現在も様々な企業にご協力の依頼を行っており、引き続き受け入れていただける企業を探していく。

災害対策については、防災用品のさらなる充実に努め、また防災マニュアルの改善も図り、より様々な災害時に対応したものにしていく。

(7). 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|-------------------------------|----|-----------------------------------|
| ・ 学生募集活動は、適正に行われているか | 全体 | 【3】 |
| ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 学納金は妥当なものとなっているか | 全体 | 【4】 |

①成果と課題

学生募集はSNSなどを用いて積極的に学習環境や学生の状況を外部に発信しており、入学希望者に対して適切に学生募集活動が行われていると考えている。

また学納金は適切な範囲で徴収されている。

学生募集活動は適切に実施されていると思うが、より情報エンジニア科については今後も引き続き志願者のニーズを調査し、来年度の志願者増数加につなげていく。

② 今後の改善方策

学納金は適切な価格設定となっているが、昨今の価格高騰により、実習費用など見直しを検討していく必要があると考えている。

近年大学のデータサイエンスをはじめ、理系学部が多く新設された影響を考慮し学生数の増加を図るための対策として、現在校名変更や立地について検討している。

(8). 財務

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|----------------------------|----|-----------------------------------|
| ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 全体 | 【4】 |
| ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 財務について会計監査が適正に行われているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 財務情報公開の体制整備はできているか | 全体 | 【4】 |

① 課題

財務の課題について、学園の各担当部署が立案した事業計画案に基づき予算書を策定している。広報部門より分析した広報計画案をもとに総務部門が収入予定案を作成し、適切な収支予算計画書を作成している。財務基盤は安定しているが、諸物価高騰、IT人材需要増加による教員確保及び人件費上昇が予測されるため、それを補う出願者数増加が課題である。

また、委員会実施時に出た現在の入学志願者数が弊学園で想定した数値を下回り、今後の安定的な財政基盤により一層取り組んでいく。

② 今後の改善方策

今後も学生数の増加、財務基盤安定を図るため、さらに学生にとって魅力的な教育内容を模索していく。弊学園の安定した財務基盤の形成に向けて中長期的な視点に立った学園事業計画を策定。また学内組織の変更、教職員の構成の見直し、経費節減等の施策を実施していく。教職員全体で経費節減も含め共通認識として取り組み対策する。

③ 特記事項

毎年1回税理士により監査が行われている。私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経て、学園法人事務局に常備し閲覧できるようにしている。財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は学園のWebサイトにて毎年更新公開している。

(9). 法令等の遵守

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|---------------------------------|----|-----------------------------------|
| ・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 自己評価結果を公開しているか | 全体 | 【4】 |

①成果と課題

学校を運営する際に関係してくる各法令については、関係する役所などと相談しつつ適切に対応している。

また、個人情報保護に当たり必要な設備なども適切に運用されている。

②今後の改善方策

自己評価については、状況が毎年異なってくるため、自己評価するための根拠としているチェックシートについて内容が適切なものとするため毎年内容を確認し改善する必要があると考えている。

(10). 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|---|----|-----------------------------------|
| ・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 全体 | 【4】 |

①成果と課題

大阪マラソンのテレビ中継のために施設の貸出を行った。また、学生の救命講習を消防署の協力により実施し、社会に貢献できるようにトレーニングを行った。学生のボランティアについては、ボランティアに関連するポスターの掲示など情報を学生に公開している。これらにより社会貢献に関して適切に対応していると考え。

②今後の改善方策

地域に対する公開講座や教育訓練の受託に関しては改善の余地があり、積極的に地域の方の学びに対応できるように検討していきたいと考えている。

(11). 国際交流

| 評価項目 | 対象 | 適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1 |
|-------------------------------------|----|-----------------------------------|
| ・ 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 全体 | 【4】 |
| ・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 全体 | 【4】 |

①成果と課題

留学生に対し、法令面や生活面、学習面など担任と留学生担当者が協力しながらサポートを適切に行なっている。

②今後の改善方策

留学生の就職については毎年難しい学生が出てくる可能性があり、その支援について今後も引き続き対応が必要となる。毎年状況は変わっていくが、担任を中心とし引き続き支援を継続していく必要があると考えている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今後も改善できる箇所はあるが、学校全体の目的である教育分野に関してはきめ細かいサポートを実施しており、今後もその部分を継続していく。改善点を解消することにより教育や学校組織のレベルを上げていくことができると考える。

実践的教育という面では、企業の皆様のご協力の下適切に実施できているが、技術は日々進化し必要とされる知識は変化していくため、それらの情報を委員会や教員研修など様々な方法で集め、改善を続けていく必要があると考えている。

各学科ごとでは、電気設備科は低圧電気取扱者特別教育の実施により、電気を扱う際の注意点や心構えを学び、電気工事に直結する石膏ボードへのコンセント取り付け実習、実習室の照明器具取替工事実習、将来の電気設備点検を見据えたドローン操縦訓練といった業界関係者の皆様にもご納得いただけるような実践的教育を行うことができた。

電子工学科では、ロボット製作に関して業界の第一線で活躍しておられる方を顧問として授業についての技術的サポートをしていただき、学生が楽しんでやりがいをもって取り組める実習の実施に励んだ。

また、情報エンジニア科のプロダクトデザインコースでは第一線で活躍されている方に講師をお願いし実践的な実習を盛り込んだ教育を行っている。

それ以外にも委員会にて業界関係者のご意見をいただき、カリキュラムの改善に意欲的に取り組んできた。

今後も引き続き将来学生が就職先で自信を持って仕事に取り組んでいけるよう、実践的な教育を盛り込んだカリキュラムの改善に努めていく。

以上